東京秋工会顧問
志賀英一さんを しのぶ
（昭和31年工業化学科卒）

情熱のラガーマン志賀英一氏、関東ラグビーフットボール協会会長、東京秋工会顧問は、平成24年4月14日74歳を以って悠久の眠りに就かれました。慎んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

お通夜の帰り道、東京秋工会幹部の皆さん10名ほどで三平俊悦会長(S39年建築科卒)を囲み、お通夜はたくさんの人だったね、故人の好きだったお酒を交わしながらの偲ぶ話しはつきることはなく続いたものです。志賀さんは常々今の自分があるのは母校、秋田工業高校のおかげ、ラグビーに出会い良き仲間に出会えたとしみじみ話していました。揺るぎない芯の強さを持った責任感の強い、頑張り屋で不屈の精神を持った、秋工の校是「質実剛健」を地で行く様な人でした。お酒もめっぽう強く、茶目っ気もあり上目使いで、嬉しそうに微笑む横顔は印象的でした。

志賀先輩は、一昨年熊谷ラグビー場で開催された全国高校選抜大会第11回大会の応援観戦で、予選リーグの桐蔭学園に惜敗した試合に、この戦いぶりを高く評価し「素晴らしい内容のある試合だった」。また「秋工伝統の前に出ての激しいディフェンスが復活している。揺るぎのない、引き締まった緊張感あるゲームで明日に繋がる」と確信をもったようでした。先輩の亡くなる2週間ほど前、同グランドで開催された第13回大会は、志賀先輩の予言と期待に応えるディフェンスとタックルで予選リーグを突破し桐蔭に勝ち本年全国優勝した東福岡戦でも、一歩も引けを取らない立派な戦いでした。素晴らしい試合を志賀先輩にぜひみせたかったものです。

志賀先輩の同期31年組はとりわけ結束力が強く、同期入部で秋工・早大でラグビーを共にし、親交の深かった高橋陽之助さん(S31年治金科卒)は、「志賀は陽気で肝っ玉が据わった周りを引っ張る『キャプテンシー』を備え、素晴らし人間的魅力があった」と評し、「2019年日本開催のワールドカップを一緒に楽しみたかったのに残念」と肩を落としていました。志賀さんは口癖に「みんなでやろうよ、練習でも、試合でも、私生活でも皆で決めた事は皆で守ろうよ」と自律の心を大事にする厳しさをもっていました。練習よりきつかったのは先輩の精神面の指導のミーティング、場所は木造体育館の屋根裏の部室です。新入部員は自己紹介と歌の披露の後、全員のあだ名をつけました。志賀さんも、早大新人歓迎会で秋田民謡「ドンパン節」を大声で歌い以来、「ドンパ」が愛称、当時明大キャプテン小林清先輩(S30年電気科卒)も「ドンパ」で、明治のドンパ・早稲田のドンパが当時大活躍されていました。秋工ラグビー部には身体はもとより精神を鍛える三か条、部の三要素がありその基本は

① 服装…部員章は常に襟につけ、身なり、服装をキチンとする事
② 清掃…部室、グランドは神聖な道場、1年生は昼休み全員毎日部室に集まってボールみがきに部室の掃除・整理整頓
③ 礼儀…先輩に対する尊敬の念、大きな声で「ハイ」との返事駆足で行動。グランド出入りでの会釈の励行。基本的生活態度を厳正に明るく正しく活動をする事

等で徹底的に、時には正座で教育されました。最後に志賀先輩に感謝しつつ輝かしいラグビー人生をここに改めてご紹介します。

［高校時代］ 秋工ラグビー部で、1年生から3年間レギュラー、3年間全国大会出場、2年生時(S29年)準優勝、3年生時(S30年)主将として全国制覇優勝。

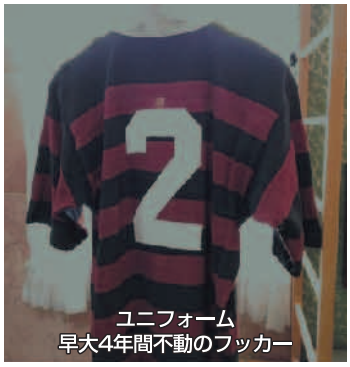
［大学時代］ 早大ラグビー部で、1年生からレギュラー、4年間公式戦に出場。3年生時　全国制覇、4年生時　主将務める。日本学生代表。関東代表、日本代表3回と現役時代も輝かしい史跡を残しています。

社会人になっても早大ラグビーフットボールOB会会長、関東ラグビーフットボール協会会長、日本ラグビーフットボール協会理事、と要職を歴任しラグビーにかけた情熱は並々ならぬもの。日本ラグビー界の協会改革にも骨身を惜しむことなく全力を傾けていました。私どもも先輩のラグビー精神を継承し母校の発展に心新たに努力してまいりたいと思います。これからは雲の上の特等席から秋工ラグビー部の活躍と日本ラグビー界の発展を見守って欲しいと願うばかりです。

志賀先輩お疲れ様でした、ゆっくりお休みください。

大塚 廉造（S32年工業化学科卒）

秋工時代
前列左から2人目が志賀さん



ユニフォーム
早大4年間不動のフッカー

東京秋工会総会で挨拶する
志賀さん